

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902595		
法人名	株式会社 緑ケアライフサービス		
事業所名	グループホーム 『殿』 ユニット1		
所在地	旭川市東6条10丁目1番22号		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172902595-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172902595-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・経営理念「‘その人らしさ’を尊重し、生きる喜びに共感する」を念頭に当事業所で従事するスタッフが全力で入居者さまと関わらせていただいております。利用者主体に家庭的で穏やかな雰囲気によって、安心した生活が送れるよう心掛けています  
 ・より楽しく、おいしい食事をしてもらうための献立を計画的にたてています。栄養士を配置し、一日の栄養管理にも配慮しています。  
 ・入居者さまの生活リズムを考え、ご本人のペースに沿った柔軟な支援をしています。小さな変化にも敏感に対応し、迅速な行動をとるよう努めています。各スタッフ同士も綿密なコミュニケーションにより、チームワーク良く対応させていただいています  
 ・各スタッフの資格取得や研修参加を積極的に呼び掛けており、実際、事業所内での質の向上を目的とした取り組みのほか、外部研修にも参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅地に位置し、近くに商業施設や小学校などがあり、交通の利便性及び生活の利便性に恵まれている。事業所は2階建てで1階と2階に各1ユニットがある。温度・湿度管理や手すり・テーブル等のアルコール消毒、定期的な換気と感染症予防に努めている。食堂や居間、喫茶ルームは明るくつろげる空間になっている。食事は栄養士の指導の下、彩り良く豊富なメニューで制限食への配慮や栄養管理も適切に行われており、行事食や外食も工夫して、利用者の満足感にえている。職員と利用者がプランターでお花やミニトマトを育てており、ミニトマトは食卓に彩を添え喜ばれている。居間には職員と利用者で作った季節感ある飾りつけされている。利用者は散歩時に地域住民と会話したり、事業所行事で家族や地域住民、ボランティアと交流していたが現在はコロナ禍で自粛している。理念の「その人らしさを尊重し生きる喜びに共感する」を常に意識し、職員は自由な雰囲気ですぐ利用者へ接している。職員は資格取得のサポートやケア上の課題に即した研修など、また、質向上への取り組みも充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に出勤しているスタッフ全員で理念を唱和(最近疎かし、ほぼ皆、暗記していません。理念通り否定することなく実践し、理念は、社内外に向けて、目につきやすい玄関入口やリビングに掲示しています。	理念「その人らしさを尊重し、生きる喜びを共感する」を玄関やホールに掲示し全職員で共有している。朝の申し送り時の唱和や全体会議で理念について再確認をし実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣のふじスパークやツルハ・セブンイレブンを頻りに利用させて頂いていますが、コロナウイルス感染予防のため、入居者さんは地域交流が出来ていません	町内会に加入している。町内の清掃活動や焼肉会に参加したり、事業所主催の敬老会等で地域住民との相互交流を深めていた。また隣接する他法人の介護施設と交流もあったが、現在コロナ禍で自粛している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	経営者が町内会の総会に参加し、必要に応じて、認知症の方の理解やご支援方法について、説明させてもらっている。また、認知症カフェ「ぶらっとカフェ」の実行委員となり、尽力している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、書面開催が続いておりませんが、返信していただいた意見をサービスの向上に繋げています	利用者や家族、地域住民、市の職員などが2カ月毎に開催していた運営推進会議に参加していたが、現在はコロナ禍により書面会議を行っている。活動状況や行事報告等を会議録としてまとめ各参加者に送付し、返信があった意見や助言を得ながら運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者を招致したり、必要に応じて市の担当者や連絡を取り、アドバイスをいただく等、良好な関係を築いていけるよう努めています。また地域包括支援センターが主催するグループホーム交流会の企画委員として、毎回、参加しています。	市の担当者とは、情報交換をしたり事業所の状況を伝え、積極的に協力体制を築いている。地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携を取り、認知症サポーター養成講座やグループホーム交流会の開催をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的を実施しています。どんなことが身体拘束となるかをいつも、業務を振り返り、不適切ケアを抽出し、より良いサービスに繋げている。外部研修にも参加し、その学びを共有しあっている	身体拘束廃止委員会を設置し外部研修や伝達研修を定期的に行っている。拘束となる行為とそれに伴う弊害を全職員が理解し実践に活かして利用者の安全に配慮するよう取り組んでいる。防犯上夜間の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者さんの生活ベースを重んじ、そのベースに合わせたケアをしています。道主催の研修のほか、外部研修に参加し、参加時は勤務調整している。職員のメンタルヘルスにも目を向け、月1回の全体ミーティング等で話し合っている		

グループホーム『殿』ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の勉強会や研修に参加し、知識の向上に努めています。該当の入居さんがある場合は行政担当者に指示を仰いでいます			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容・契約書の説明については、特に時間をかけて行い、ご本人およびご家族様に納得していただけるようにしています。重篤化した場合や金銭に係わることは理解・納得していただける説明を心がけています			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常生活状況は、家族の来訪時や電話・便り(ホームの活動や個々の状況等)で報告しています。職員は利用者との会話の中で思いを汲み取り、家族からは関わりの中で要望を把握し、課題は迅速に具体策を検討しています。	家族の来訪時や行事の際に利用者の様子を伝えながら意見や要望等を傾聴している。毎月のお便りに個別のコメントを書き添え、運営推進会議議事録を添付している。要望は職員間で共有し、迅速に対応している。また意見箱を設置し、外部相談機関の紹介もしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全スタッフミーティングや都度、職員が自由に意見や提案を表せる機会を設け反映させている。その他、個別に面談も行い、話し合いの機会をつくることに留意している。	月1回の全体会議や日常業務の中で職員の意見や提案等を聴く機会を設け話しやすい環境作りをしている。個人面談を実施し意見や要望を聞く機会を得、職員間の人間関係の把握にも努めている。内容は検討して運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とスタッフ、管理者と代表者というように管理者が両者の意見を反映させられる橋渡し役になりながら、組織として、ボトムアップ出来る報・連・相を重視した意識をもっています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者・現場職員お互いが、まずは素直に聞き入れる姿勢でいます。個々の長所を見つけ、言葉にして認める努力をしています。外部研修については、コロナウィルス感染予防にて、オンライン研修で参加しています			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症GH協会(理事)、4圏域GH交流会(企画委員)、ぷらっとカフェ(実行委員)、まちづくり推進協議会等 様々な団体に属し、迅速な情報収集に努め、業界全体の底上げに注力しています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の今日までの生活歴や趣味・願い・要望等を入居前に代表者および管理者が、ご本人・ご家族様から、じっくり時間を掛けて、面談により聞きだし、傾聴しています。入居間もない期間は、ご本人と向き合う時間を増やし、観察力を高め、綿密な職員同志の情報の共有に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現段階でご家族様が困っている事、不安な事を入居前、サービス開始前に面談し、じっくり時間を掛けて、傾聴しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の双方にお話を伺い、何を必要とされているのか、どのような思いを大切にされてきたのか伺って、その要望・希望を抽出し、私達に何が出来るのかを皆で話し合い、諦めず、前向きな考えで支援させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に過ごせる時間を少しでも作るように努めています。日常会話も多くすることで信頼関係を築けるよう努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密に行い、近況を伝えたり、家族様からの意向を聞き入れるようにしています。毎月、その月の行事や本人の写真をコメント入りで送付しています。ご家族が散髪したりする時間を尊重しています。米寿のお祝いにも一緒に参加していただき楽しんでいただきました		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて、現在、思うように出来ていませんが、入居者さんが不穩時、ドライブで馴染みのある場所をコースに入れたりしています	コロナ禍の前までは町内会の人と散歩やスーパーでの買物、理美容室などで交流し馴染みの関係が構築され、地域に暮らす友人達との食事会に出掛けたり、自宅への外泊をしたりして継続的な交流ができる様支援していたが、現在は自粛中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレク(ゲーム)等にお誘いし、日頃から関係が円滑になるよう支援しています。お茶やおやつ時には、職員が間に入り会話の橋渡しをしています		

グループホーム『殿』ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性を大切にし、相談を受けたり、本人・家族様のフォローをさせていただいております			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いや要望など日常の会話、日々の行動や表情などのサインを敏感に察知するよう努めています。本人の意向を重視し、実現させるための手段を常に模索しています。	日常生活の中での会話や表情、行動から思いや意向の把握に努めている。利用者の意向の把握が難しい場合はセンター方式やひもときシートを活用してくみ取り、本人主体の生活が維持できるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントでセンター方式により、本人及びご家族から情報収集し、入居後も職員が会話の中で生活歴・趣味を聴取しながら、その都度、記録している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録・介護日誌・アセスメントシート等、職員同士で情報を共有し、一人一人の生活スタイルを把握できるよう努めています			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話にて随時、ご家族へ本人の様子をお知らせし意見や思いを引き出せるようにしています。サービス担当者会議等で今後の課題やケアのあり方について話し合いをしています。	介護計画はセンター方式を採用し短期3ヵ月、長期一年で計画作成担当者が利用者や家族の要望、職員の意見を取り入れて作成している。利用者の状態に変化があった場合には、その都度見直しを行い家族から承認印を得、常に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事・水分・排泄等の身体的状況及び日々の暮らしの様子、本人からの話、状態変化等記入して、いつでも全職員が確認できるようにし職員間の情報共有をしています。勤務開始前の記録確認・申し送りを義務付けしています			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに応じて、その都度、柔軟な対応が出来るよう努めています			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防のため、地域資源の協働が図れていません			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様が希望する医療機関へ受診しています。毎月、定期的に訪問診療で指導・助言をいただいております。対応に苦慮する場合は都度、相談し、対応していただいております	利用者がこれまでかかっていたかかりつけ医や希望する医療機関を受診できるように支援している。受診結果は家族に報告し、共有化されている。受診は職員が同行している。訪問医が定期的に訪れて利用者の状態を把握し常に適切な医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム『殿』ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療していただいている医療機関と密に連絡をとり、相談したり助言もったりしています。訪問診療前には、毎回、その時の状況をFAXにて報告しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が安心して入院できるように、アセスメントを提供し、退院時はソーシャルワーカーや病棟看護師から治療経過をお聞きしたり、サマリーの文書をいただくとともにご本人と面談したうえで退院直前の排泄・食事状況を必ず確認し、医療機関との連携に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応指針を説明しています。終末期のあり方は、事前にご家族の意向を聞き、対応しています。医療機関・主治医・看護師と情報共有を密にし、看取りについても取り組むことができています	重度化や終末期の支援については「重度化した場合の対応指針」に元づいて説明し同意を得ている。利用者や家族の意向に添った支援が提供できるように努め方針を共有している。医療機関と連携を取りながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、救急救命の訓練やAEDの使用方法を訓練したこともあります。圏域合同の行方不明者発生時の訓練として定期連絡をしています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民へも参加を呼び掛けて、夜間・日中想定で防災業者・消防署立会いのもと年2回避難訓練しています。	年2回昼夜想定での避難訓練を地域住民や消防署、消防設備業者、運営推進会議のメンバーの参加協力を得て行っている。災害発生時に備えて備蓄品も用意している。救急救命講習を定期的な受け、災害時の対応に備えている。	災害に備えた飲料水や食品などの備蓄品や簡易トイレや暖房器具などの防災用品をリストアップしながら、不足分や便利な物等も併せて検証し、災害時に備える事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報管理徹底。一人ひとりの生活歴を大切に、個々に応じた言葉かけ(馴染みある呼称で)や対応を心がけています。個々人のプライドを把握するよう努め、配慮しています。	利用者の人格を尊重しスピーチロックを意識しながら傷つけない言葉かけや対応に努めている。また馴れ合い関係にならないように節度を持って接している。呼称は基本「さん」付けとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方は勿論ですが、困難な方には今どうしたいのか、表情や仕草等で対応を工夫しています。飲み物を飲む時に何を飲むか、ソースか醤油か 選択してもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	止むを得ず入浴日を変更したりし本人のペースを乱してしまうこともあるが、今までの生活スタイルを尊重し、一人ひとりに合ったペースでご本人の意欲を大事にし、ゆっくり・いっしょに・楽しく生活できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、自身で整容し、洋服選びをしてもらっています。支援が必要な方は毎日同じ服にならないよう注意しています。行事の時には余所行き服を着たり、化粧水を毎日つけている方もいます		

グループホーム『殿』ユニット1

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やイベント時に応じて、季節感を感じる食事を提供しています。刻み食、軟食、トロミ、ミキサー食にも対応しています。	食事は利用者の好みや希望を取り入れながら栄養士と職員が作っている。利用者も調理や茶碗拭きなどできることを手伝っている。塩分や糖質管理が必要な利用者の盛り付けは見た目に差のないように工夫している。行事食、外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は個々の一日の摂取目標値を掲げ、摂取量を時間単位でチェックしています。また献立は、栄養士資格をもった職員と相談し、個々人の分量を工夫したり盛り付けを工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っています。その際、口腔内の状態を確認しています。介助の必要な方は、口腔ケアを行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、トイレにて排泄が出来るよう定時的に誘導しています。オムツ代軽減のため、職員間で共有し、パットの大きさ・容量など随時、検討しています	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、定時誘導や様子を観察しながらの声掛け誘導を行っている。状態に合わせた排泄用品を使用し、スムーズな排泄や失敗の軽減に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の際に排便の有無を確認しています。便秘傾向の方は主治医の指示に従い、下剤服用しています。朝に牛乳を飲んだり、冷たい水を摂取してもらったり工夫しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴できるよう心掛けています。一人一人に合わせた入浴方法で支援し、その日の体調に合わせて無理せず入浴してもらっています	週2回の入浴を基本として、利用者の体調や希望に応じて柔軟な対応を心掛けている。入浴を拒む利用者には、職員や時間を替えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合った生活リズムで休息していただくようにしています。昼寝も1時間とって、夜間就寝時、寝付けない方は穏やかに入眠できるよう配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来るだけ薬に頼らないケアに努めています。薬の内容や目的、副作用等把握するよう努め、通常、提携している薬局に管理してもらい随時、処方薬の相談もしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族より以前の趣味・得意なことを聞き出し、ご本人に合わせた機会を設けるようにしています。洗濯物干し等家事の手伝い、花壇づくりのお手伝い、新聞読み等々		

グループホーム『殿』ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防のため、外出支援は出来ていません	日常的に散歩や買い物に出かけたり、花見や動物園見学などの外出や、庭先で縁日を開催するなど楽しむ機会を設けていたが、現在はコロナ禍で自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、預り金にて管理している。希望時は、家族の理解を得た上で、少額のみ持たせていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用や手紙のやり取り等は制限を設けていません。ご家族へ電話したい要望があった際、ご家族から電話があった際、都度、電話口に出ています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気でも過ごしていただけるよう和風を基調にした建築に加え、明るく、清潔感のある季節感ををもった環境づくり(ガラス面の飾り付け、雛人形、クリスマスツリー、しめ縄等)をし、特に温度・湿度については一定に保つよう配慮しています。	共用空間は温度や湿度が適正に配慮され清潔に保たれている。また各季節に合わせた手工芸品や行事の写真を飾って季節感を出し、明るく家庭的な雰囲気になっている。多目的に使用できる喫茶ルームには、観葉植物が置かれ落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士お茶のみが出来るよう、適宜、家具や食卓テーブルの配置換えを行い、関係性が良くなるよう環境を整えています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんの使い慣れた物を持ち込んでいただくよう入居前の面談で説明させていただいております。本人が見える所に家族写真や置時計、記念品等置いています	利用者は家族の協力を得ながら使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込んでいる。居室入口には、絵柄の異なるドアホーンや表札、本人の作品が掛けられて自室が分り易いように工夫している。又、利用者の希望や状態に合わせて、2種類のベットを使い分けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等は手すりが設置されて、管内バリアフリーです。歩行動線上、障害になる物は置かないよう安心・安全に生活できるよう努めています		